北信教育事務所だより　第3号

～教師・学校・地域がつながるために～

令和2年5月28日

子どもの輝く笑顔のために、

A小学校のこれまでの取組と悩み

◎すべての家庭でオンライン学習に対応できているわけではない

（全家庭の２～３割は、オンラインの学習環境にない）

⇒臨時休業中の家庭学習の課題として、プリント配付が中心。各学年の実態に合わせ、自主学習ができるよう工夫したが、漢字や計算といった基礎的基本的な反復練習プリントが主流。**「授業と関連させた家庭学習」**にすることが課題。

◎縮小した入学式始業式以降は登校日を設けることができず、「下駄箱ポスト」を利用

保護者による家庭でやり終えたプリントの提出や、学校からの新たな課題や配布物を持ち帰るという方法が精一杯。

臨時休業から次のステップへ

◎オンライン学習のための整備がすぐにはできないという事情がある

そのような状況の中、ネットの利用はもっぱら保護者の持つ携帯やパソコンへの配信による情報提供や連絡にとどまる。家庭における児童のオンライン学習の主体的な利用まではいくつもの壁がある。インターネットを使った急激な学習スタイルの整備を求められる中、学校は個々の家庭事情と社会情勢の板挟みに合い苦悩。

◎臨時休業開けの授業で、「密」の制約や「新しい生活様式」に対応

今後、どのように**「主体的・対話的で深い学び」**の実現を図る授業を創造していくか、日々検討中。

知恵を出し合い、ともに前へ進む。

各学校に子どもたちの声が戻り始めました。これまでの臨時休業中では、多くの学校で、A小学校と同じような悩みを抱えているのではないでしょうか。学校再開後の取組について、さらに次のページから考えてみたいと思います。

「前へ進む」ための工夫例

学校再開に向け、各学校では様々な取組を検討しています。一部を紹介します。

授業時数の確保

◆朝の時間を活用し、１日 15 分の活動も、３日で 45 分。１時間分の時間を確保。

◆火曜日と木曜日は、清掃の時間をカットして、授業時間に充てる。

◆授業の１単位時間を 40 分にし、授業コマ数の確保。

◆今年度は、水泳の学習を取り止めることも検討。

◆運動会は、競技種目数を厳選し規模を縮小して、秋に実施。

学びの保障

◆家庭学習と授業をリンクさせた取組を検討。具体的には、登校時に学習課題を設定し、家庭学習で課題追究を各自で行い、登校時に追究結果を伝え合い、考えを交流する場を設定する予定。

◆家庭学習の評価をする場面として、学校再開時に小テストを実施予定。テスト実施後、結果を分析し定着が思わしくない内容については、補充指導を計画中。

（テストの工夫例：家庭学習で取り組んだワークシート、レポートや資料の持ち込みを可とすることなども検討中。）

◆各教科の指導計画を見直し、単元の学習の中で「子どもたちにしっかりと考えてほしい場面」と「教師からの説明が中心となる場面」を位置付け、めりはりのある授業づくりを検討中。

◆配慮を要する子ども、不安を感じている子どもへの学習保障については、個別に支援する時間を設け、話を聞いたり一緒に考えたりした学習支援。

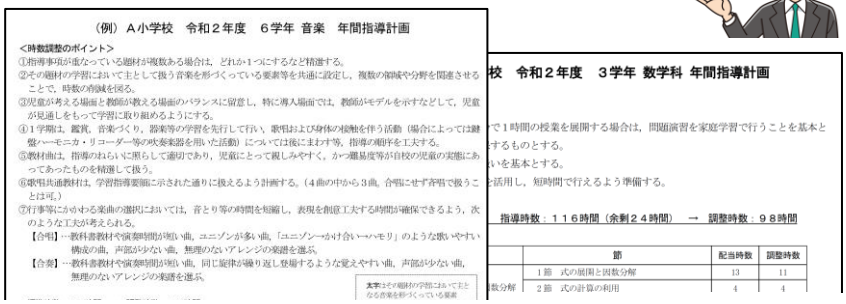
児童生徒の主体的な学習、対話的な学習

◆「チョーク＆トーク」の授業にならないように、ソーシャルディスタンシングに配慮しながら、１時間の授業に 10 分間だけ、本時の課題について対話活動を位置付けることができないか検討中。

そのほか、こんな工夫も

◆休業中の子どもたちの学習や生活の取組で工夫していること、取り組んでみて効果があったことなどを募り、学校のおたよりやホームページに掲載し保護者に紹介。

長野県総合教育センターホームページには、臨時休業明けの年間指導計画例が掲載されています。


（例）Ａ小学校　令和２年度　６学年 音楽　年間指導計画

＜時数調整のポイント＞

①指導事項が重なっている題材が複数ある場合は，どれか１つにするなど精選する。

②その題材の学習において主として扱う音楽を形づくっている要素等を共通に設定し，複数の領域や分野を関連させることで，時数の削減を図る。

③児童が考える場面と教師が教える場面のバランスに留意し，特に導入場面では，教師がモデルを示すなどして，児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。

④１学期は，鑑賞，音楽づくり，器楽等の学習を先行して行い，歌唱および身体の接触を伴う活動（場合によっては鍵盤ハーモニカ・リコーダー等の吹奏楽器を用いた活動）については後にまわす等，指導の順序を工夫する。

⑤教材曲は，指導のねらいに照らして適切であり，児童にとって親しみやすく，かつ難易度等が自校の児童の実態にあってあったものを精選して扱う。

⑥歌唱共通教材は，学習指導要領に示された通りに扱えるよう計画する。（４曲の中から３曲，合唱にせず斉唱で扱うことは可。）

⑦行事等にかかわる楽曲の選択においては，音とり等の時間を短縮し，表現を創意工夫する時間が確保できるよう，次のような工夫が考えられる。

【合唱】…教科書教材や演奏時間が短い曲，ユニゾンが多い曲，「ユニゾン→かけ合い→ハモリ」のような歌いやすい構成の曲，声部が少ない曲，無理のないアレンジの楽譜を選ぶ。

【合奏】…教科書教材や演奏時間が短い曲，同じ旋律が繰り返し登場するような覚えやすい曲，声部が少ない曲，無理のないアレンジの楽譜を選ぶ。

太字はその題材の学習において主となる音楽を形づくっている要素

校　令和２年度　３学年 数学科 年間指導計画

で１時間の授業を展開する場合は，問題演習を家庭学習で行うことを基本とするものとする。

いを基本とする。

を活用し，短時間で行えるよう準備する。

指導時数：１１６時間（余剰２４時間）　→　調整時数：９８時間

	節	配当時数	調整時数
数分解	１節　式の展開と因数分解	13	11
	２節　式の計算の利用	4	4

北信教育事務所は、先生方とともに考えていきます。

授業と家庭学習を関連させ、単元でつける力を育む単元構想について、ともに考えていきます。

年間計画を再検討するにあたり、具体的にどのように考え実施していけばよいかについて、ともに考えていきます。

再度休業になった場合、どのような家庭学習を準備していけばよいかについて、ともに考えます。

外国語（活動）で行う言語活動を効率的に行っていく方法について、一緒に考えていきましょう。

学校が再開し、不安を感じている子どもへの支援のあり方について、ともに考えていきます。

音声言語に頼りすぎない対話活動として、文字言語の特長を生かした情報交換の工夫について何ができるかを一緒に考えていきましょう。

単元の中で、どの部分に時間を割くのかについて、教科書を確認しながら、一緒に考えていきましょう。

教科書の二次元バーコードを家庭で見られるようにすることで、家庭学習が授業の一部になります。単元展開を大胆に考えていきましょう。

「zoom」を使って、単元構想の相談は、今すぐにでも可能です。

詳細は、「新型コロナウイルス感染症に対応した学校訪問支援メニューについて」（6/1 付け）をご覧下さい。

年間指導計画 修正のポイント

① 家庭学習で履修した内容について、学校再開後に授業で扱うかどうかを検討し、整理する。

児童生徒に十分な学習内容の定着が見られ、学校再開後に、一律の授業において指導する必要がないと校長が判断する場合には、再度取り扱わなくてよい。

（5月11日付「臨時休業中の家庭学習の評価等について」参照）

② 指導計画に家庭学習を位置付ける。

個別でも学習可能な練習問題などは、家庭学習で行う。

授業と家庭学習を合わせた単元展開を構想する。

③ 感染リスクの高い単元は、年度の後半にする。

歌唱や身体接触の可能性のある活動を含む単元については、指導計画を修正し、できるだけ後に行うようにする。

④ 実験・製作（制作）・実習の内容の扱いについて検討し、整理する。

対面指導のもとに学習する必要があり家庭学習で実施することが難しい実験や製作(制作)、実習と、家庭学習で扱うことが可能なものとをすみ分ける。

⑤ 他教科等と関連付けて扱うことのできる内容や題材について検討する。

目標や内容を鑑み、教科・領域の関連性を生かしながら、内容や題材について関連付けて扱うことができる可能性を検討する。例えば、総合的な学習の時間との横断的な学習活動の工夫など。

⑥ 行事等と関連がある内容や題材の工夫及び時数調整を検討する。

行事等の精選とともに、教科・領域の学習活動とつながりの強い内容や題材について工夫したり、時数調整を検討したりする。

⑦ ２学年間かけて指導する内容について、適切に配分したり、調整したりする。

２学年のまとまりの中で指導する学習内容について、取り扱う時期や配分等を検討し、時数調整をする。

「年間指導計画」「授業・家庭学習」の両面から学校・教師ができるあらゆる手段で、子供の学びを最大限に保障する

授業の工夫

① 連続的な学びを実現させる授業展開（アプローチ）を構想する。

例えば、家庭学習について、獲得した知識・技能の定着を図る内容と、授業における「課題の把握」「見通し」を基に、個人追究として主体的に取り組むことができる内容とを組み合わせて行っていくなど。

※最終頁「授業と家庭学習をリンクさせる例」参照

② 単元の導入を工夫する。

授業の導入場面で、資料提示の仕方や ICT 機器を活用した動画等の工夫により、目標やねらいに基づき、子供に伝えたい内容をできるだけ精選し、単元を貫く問いや課題などが明確になるようにする。また、導入に要する時間の縮減も図っていく。あわせて、授業で扱う代表的な例題についても精選し、工夫する。

③ 板書やノート記録を工夫する。

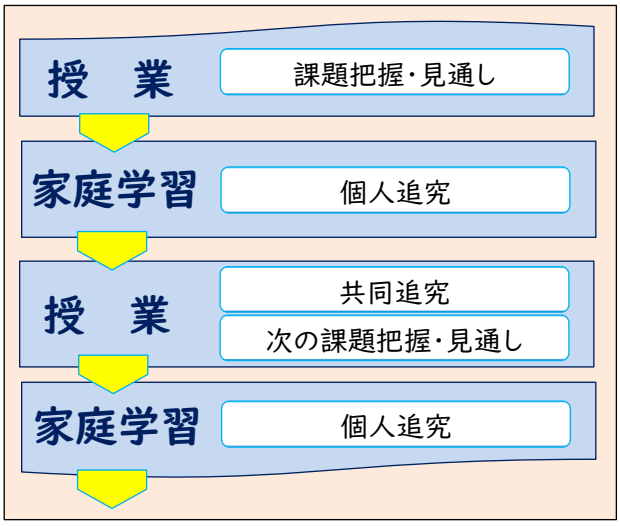
教師が板書にかける時間や子供がノートに記録する時間をできるだけ縮減できるような工夫をする。例えば、協働的な学びの実現のための ICT 機器の活用、自分の学びの足跡がわかりやすくなるような記録する内容を精選したワークシートの作成など。

④ 時間割の配列を工夫する。

実験や製作(制作)、実習の準備や片付けに要する時間を縮減するための工夫を検討する。例えば、同じ学習内容の実験や製作(制作)、実習を行う場合、同一学年を連続的に授業することができるように時間割を組み替えるなど。

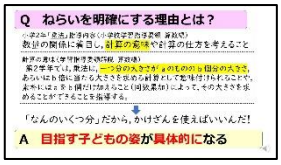
学校再開後の授業において、無理なく学習のおくれを取り戻していく具体例につきましては、５月２２日付けの県教育委員会カリキュラム開発チーム「臨時休業を考慮した年間指導計画の修正等について」にも掲載されています。

次のように、家庭学習と授業を効果的に機能させ、従来のスタイルを改善し、子どもの連続的な学びを実現させていくことも考えられます。



知恵を出し合い、前に進んでいきましょう。北信教育事務所は、各学校からの相談に応じます。

課題と向き合う初任の先生方



「授業づくりの基礎・基本」動画

初任研授業力向上研修Ⅰが行われました。本来であれば、公開授業を参観し、初任者だけの授業研究会が開かれる予定でしたが、各所属校で動画を視聴する代替研修を行いました。動画は、北信教育事務所が作成した「授業づくりの基礎・基本」と、「授業参観の心得」です。初任者の先生方は、この動画を視聴し、自分の課題について考えました。

他の先生方はどのように工夫されているのか、または配慮されているのかなどを勉強するために、日常的に自分の課題を把握しておくことが大切だと思いました。また、授業を参観した際には、生徒の学習姿勢をよく観察し、発言や記述、友達とのやり取りなどに注目をしていきたいと思いました。

教師、教材、子どものバランスが難しいことがあります。教師の思いが強すぎて一方的な授業になってしまうことがありました。子どもの願いを考えすぎて、本来のねらいから外れてしまったこともありました。題材や内容を考えるときにそのバランスが取れるようになりたいです。

初任の先生方の振り返りから

私は、その場しのぎの曖昧な反応をしてしまうことがあり、こんなふうに伝えればよかった等と後悔することがよくあります。「わからない」に寄り添う授業を目指すにあたって、生徒が「わからない」と伝えてくれた時には、その思いを共有し、認めてあげられるようにしたいです。

自分の授業は、教師主導の押し付けるような授業になってしまっているのが課題です。学習することをただ提示するのではなく、「前回はこれを学んだから、今日はこれを学びたい」というように、まずは子どもが主体的に学べるよう導入の仕方に重点を置いて考えていきたいです。

自分の課題と真摯に向き合いながら、授業の準備を進める初任の先生の姿を大切にしたいですね。

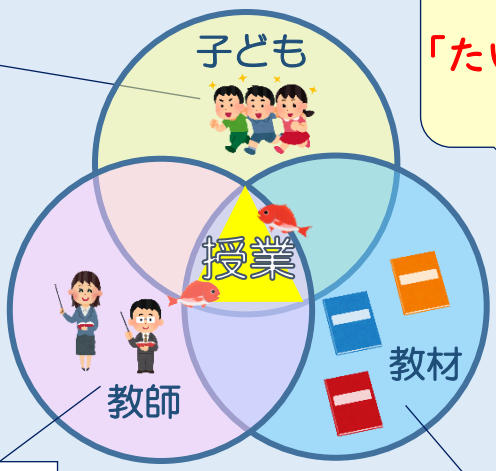
授業づくりの基礎・基本

どのように学ぶか？

主体的・対話的で深い学び

子どもの ねがい が生まれる

問いのある授業



子どもの「～したい」があふれる

「たいが泳ぎ回る授業」

を目指しましょう！

何ができるようになるか？

資質・能力の育成と学習評価の充実

授業の ねらい を明確にもつ

何を学ぶか？

系統性と他教科とのつながり

（縦と横のつながりを考える）

いい ねた 選び

授業づくり

合言葉は、

三つの いい「ね」

「授業づくりの基礎・基本」動画をご覧になられたい方は、北信教育事務所までお問い合わせください。